

したけど、ご両親は？ 遊女をつれ合いにしたい
などと聞いたたらご両親が、どれほど悲しむか

高代（お蓮）

平成三年度響ホール自主事業
清河八郎没後一五〇年顕彰記念 劇団響特別公演

お蓮

妻「お蓮」の純愛と愛国の仲間たちとの
幕末青春グラフィティ

作／柘植徳井
演出／佐藤正一
（表現舎刻一刻）

| | | |
|------|------------|-------------------------------------|
| 2012 | 3 10 土 | 開場／午後6時 開演／午後6時30分～9時30分 (休憩15分) |
| | 3 11 日 | 開場／午後1時 開演／午後1時30分～4時30分 (休憩15分) |

◆あらすじ◆

安 政二（一八五五）年、清河は江戸に文武両道の清河塾を開いていたが、大火で丸焼けになり、庄内に帰郷していた。九月のある日、親友の志士、安積五郎を誘って鶴岡屋で女たちを上げて豪遊。そこで清河は、高代の心の美しさにひとめぼれ。それからというもの足しげく鶴岡屋に通い、ついには身請けを決意し求婚する。斎藤家は猛反対であったが、伯父夫婦のもとで、二人はささやかながら三々九度の盃を交わした。

そ れは、名家の長男の地位を捨てる決断であった。そして、高代を泥の中に咲く蓮の花にたとえ、「お蓮」という名前に変えたのである。
安政六（一八五九）年大晦日、江戸。自宅で文武両道の塾を開き、貧しいながらもお蓮と平穏な日々を送っていた。翌年桜田門外で幕府の長老・井伊直弼が討たれ、清河は衝撃を受ける。それが転機となりしだいに塾は憂国の志士の会合所となった。お蓮は、「幕府を倒す」などと酔うにつれ、ますます氣勢を上げる清河の同士に、家計の苦しきなど一切口にせず、微笑みをもって、世話する日々が続いた。

文 久元（一八六二）年、清河は書画会に出席。お蓮はその日胸騒ぎがして行くのを止めたのだったが……。

人の体など、ただの物、形にすぎぬ。大切なのは魂なのだ。そうだ、そなたの汚れていない、清らかな魂に、私は、魅かれたのだ……。

清河八郎

高代。私は、こう思うのだ。

今日は、響ホール自主事業「劇団響特別公演」にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から事業運営等に関しまして深いご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

響ホールの自主事業も平成一一年の開館以来、皆様のご期待に応えるべく企画の提供に努めてまいりましたが、今回は、清河八郎没後一五〇年顕彰記念を迎えます清河八郎顕彰会の皆様との連携の中で、出演者やスタッフなど町民による手づくりの演劇として「お蓮」が企画され、これまで三度の響ホール公演の経験を持つ地元演劇集団「劇団響」に公演をお願いし、今年度に入って連日連夜に亘る舞台稽古の積み重ねを経て、本日の公演を迎えることができました。このように町民自らが文化を創造し、響ホールを基点として発信できることは大きな喜びであり、意義深いことと思っております。

清河八郎の妻として献身的な愛をささげ、清河が幕府に追われる身となるや、捕えられて獄につながれ獄史の拷問に耐えながら、ついに維新にさきがけて獄の華と散った美しくもけなげな貞女「お蓮」が、地元清川出身でシナリオライターの柘植徳井氏によって繊細に描かれ、必ずや皆様に感動をあたえるものと確信しております。

これを機に、いろいろな場面で明治維新に燃えた男・文武両道の士「清河八郎」と献身的に支えたその妻「お蓮」が話題として語られることを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

響ホール事業推進協議会 会長 山田勇夫

「お蓮」特別公演によせて

このたび響ホール自主事業で清河八郎没後一五〇年顕彰記念として劇団響の特別公演されることは、まことにおめでたく心から祝意を表するものであります。

戯曲は柘植徳井氏(庄内町清川出身)の作で、劇団響が演じてくれます。佐藤正一氏が演出を担当し、前々から準備にはいられ、お仕事をもちながら、練習に取り組んで頂きましたことに対し、深く敬意を表し感謝申し上げます。

今年度清河八郎記念館では特別企画として八郎の妻「お蓮の生涯」を開催したのであります。それに清河八郎生誕一八〇年、没後一五〇年顕彰記念事業の一つとして協力することになったのであります。時宜を得て公演して頂けることは幸いであります。

清河八郎の一生や偉業は広く世に知られることになって来ましたが、最近新事実がわかったり、遺品の説明が進んでくると、人間性や偉大さが鮮明になって来ています。

反面妻お蓮については、短い生涯だったりで、清河八郎程知られていないように思われます。

八郎との出遭いは、遊女から志士の妻となり彼女の運命を大きく変えたのです。遊女から身請けされ、結婚生活に入り、お蓮は「八郎様、これまでのご恩は死ぬまで忘れません。それとともに、妻として夫である八郎様に精一杯お尽くし申し上げますので、末永くお見捨てなきよう……」と。

彼女の高潔な人柄が伺えるものです。お蓮の生涯、生きざまを、公演を通して見ることで理解を深める絶好の機会だと思えます。

鑑賞の手引き

尊王攘夷・尊皇攘夷(そのつじょうい)

政治を幕府から天皇の手に返し、外国人を追い払おうと主張した江戸末期の思想。

郷土(こうつち)

江戸時代の武士階級の下層に属した人々をいい、城下でなく農村に居住する武士をいう。また、由緒ある旧家や名字帯刀を許された有力農民を指すこともあり、藩・幕府に登録された。

清河八郎の生家

清川村(現庄内町清川)齋藤治兵衛家は、田圃が五三〇石で、内五〇〇石が酒造の原料であった。また、立谷沢川から取れる砂金を買い取り、酒田の豪商本間家に持っていた。山林も多数あった。齋藤家は郷土として名字帯刀を許され、庄内藩分権帳にも載っている。地方の大富豪で名家であった。

| 西暦 | 和暦 | 時代背景 | 清河八郎の年齢 |
|------|------|---|---------|
| 1830 | 天保元年 | 百姓一揆が多発し、天保の大飢饉が始まる | 1才 |
| 1847 | 弘化4年 | 前年にアメリカ船が浦和に来たため、幕府は関東の沿岸の防衛を強める | 18才 |
| 1853 | 嘉永6年 | ペリー一行が浦賀に来航し、幕府に開港を要求してきた | 24才 |
| 1854 | 安政元年 | 幕府は日米和親条約を結び下田・函館を開く | 25才 |
| 1855 | 安政2年 | 安政の大地震が起きる | 26才 |
| 1859 | 安政6年 | 幕府大老の井伊直弼が吉田松陰ら「尊皇攘夷」論者を処刑した(安政の大獄) | 30才 |
| 1860 | 万延元年 | 井伊直弼が暗殺される(桜田門外の変)。日本国内は「攘夷論」「開国論」で揺れ、清河塾には愛国の志士が集まるようになる | 31才 |
| 1861 | 文久元年 | 水戸浪士らイギリス公使らを襲撃する | 32才 |

清河八郎の生家
清河八郎生まれる。幼名は元司
遺書を残して江戸へ出奔し、東条一堂塾に入門する
酒田港から蝦夷地に渡り海防を視察する
昌平塾に入学するが失望し、神田三河町に清河塾を開く
母をつれて伊勢参りする(「西遊草」岩波文庫)。湯田川温泉でお蓮(高代)と出会う
神田お玉が池に三度目の塾を開く
虎尾の会を結成する。伊半田らヒュースケンを暗殺し、幕府に監視される
幕府の手先を斬り追われる身となる。妻・お蓮、弟・熊三郎、同士らが小伝馬町の牢に捕われる

結びに、上演にあたり格別なるご理解とご尽力をいただきました関係者の皆様と、ご多忙の中をお越し下さいました皆様に心から感謝を申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

清河八郎顕彰会 副会長 正木尚文

ふとお蓮がそこに居るような

今回、柘植先生のお蓮の台本を読み終え、ひじょうに面白いドラマとして、舞台上で一条の明かりのなかに凛としたお蓮の姿がくつきり浮かび上がり、「ああ、これは庄内町で客が呼べる作品だ」と確信に近いものがありました。劇団響でいまままで三回上演してきたのは、地元ネタ中心の私の台本で、小劇場風といましようか、どちらかといえばマニアックな作品で、観客数のほうは見事な右肩下がり状態。少々落ち込もうというもので、今回は満席を夢見たわけです。

と同時に、かつて青年団等で地域おこし事業に関わった身としては、この作品は庄内町で上演してはならない作品であるという、いつもの病気みたいな思い込みがふつふつ。それは、旧立川町の有名な人と、旧余目町の文化ホールとの、言わば一つの合併記念事業的な意義と、地域(庄内町)の文化を掘り起こすという意義の二つ。また、今回の作品は庄内町の清河八郎を知る、よい入門編にあたるとも思いました。たとえば朝ドラ「ゲゲゲの女房」のように、女房が主人公のほうが親しみやすいと申しましょうか。「この作品をぜひ上演しましょう。しかしながら、劇団響独自公演では、資金的に無理ですので、響ホール自主事業に取り上げていただきたく申し候」

そんなわけで今回は、公演の際にお祭りっぽく、八郎生家の向かいのお菓子屋さんの、手焼きのきんつばとおせんべいセット、お蓮Tシャツ、八郎グッズ、八郎関連書籍の販売も行っております。お手にとっていただけたなら幸いです。

お芝居が地域おこし的と書くと、少々政っぽくなりますが、いやいや、制作&こまづかいとしてずっと稽古に付き合っていて、主役の演技を見るたび、目頭がウルウルツとなったり、ふとお蓮がそこに居るような、そんな気がするお芝居なのです。清川出身の柘植先生が切々とお話ししてくださった、同性として寄り添うように書いた、という言葉霊が随所に役者の身体を通して伝わってきます。そうそう、いつもニヤツとしてしまうお蓮のセリフに「ただ、ここに来て、日がなお酒を呑み、食べ、同志と言う名のもと、いたずらに天下国家をかたっているだけなのは……」いるいるそんな人たち、柘植先生ちゃっかり言わせてるんだ(笑)

最後になりますが、今回の上演にあたり、なにかと協力をいただいた顕彰会さんをはじめ関係者各位に心よりお礼申し上げます。また、演出及び衣装・かつらコーディネート・小道具もろもろ、表現舎刻一刻&夢一座主宰の佐藤正一さんには、すっかりおんぶに抱っこで、さぞ重かったことと察せられ重ねて感謝申し上げます。

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。

劇団響 代表 阿部利勝

| | |
|---------------------------------------|---|
| 1863 | 1862 |
| 文久3年 | 文久2年 |
| 天誅組の変、薩英戦争が起きる | 寺田屋の変が起きる。朝廷が攘夷を決める。生麦事件が起きる |
| 34才 | 33才 |
| 浪士組、京都へ行き新撰組と分離する。四月一三日、麻布一の橋付近で暗殺される | 孝明天皇に「回天封事」を奉る。八郎、罪を許され「浪士組」編成の許可がでる。妻・お蓮が死亡する(二四才) |

●高代(お蓮)は、天保一一(一八四〇)年旧朝日村熊出岩の沢(現鶴岡市熊出)で生まれる。父は医者であった。幼名は「はつ」で一〇歳の頃に大山に里子にやられ、よく養父母に仕えて子守や畑仕事に精を出していたが、養家の暮らしも貧しく、一七歳で鶴岡の八間町の「うなぎ屋」の遊女となった。以後「高代」と呼ばれて、お客に接することになる。(今回の芝居では、「鶴岡屋」の舞台設定となっています)



作者の柘植先生を交えてみんなで八郎とお蓮のお墓参り/清川の歡喜寺にて

作／柘植徳井

演出／佐藤正一（表現舎刻一刻）

【キャスト】

お蓮／皆川美幸（表現舎刻一刻）

清河八郎／佐藤篤

山岡鉄太郎（勤王の志士・後の鉄舟）／浜口裕介（表現舎刻一刻）

安積五郎（勤王の志士）／佐久間正明（表現舎刻一刻）

杉山信之介（荘内藩家老の息子）／本間康宏

伊牟田尚平（勤王の志士・薩摩藩士）／佐々木司

益満休之助（勤王の志士・薩摩藩士）／石川幸司

池田徳太郎（勤王の志士）／鈴木吉一

琳瑞（伝通院僧侶）／阿部利勝

伊藤弥兵衛（鶴岡の廻船問屋）／佐藤正一（表現舎刻一刻）

お里（その妻）／鈴木美智子

お咲（遊女・お蓮の友達）／菅原比路美（劇団いでは）

お勝（鶴岡屋 女将）／高田康子

お玉（遊女）／北村賢子

北町奉行目付け／岡部一宏

宇兵衛（岡っ引き）／鈴木康仁

女中／上野幸美

遊女A／佐藤あゆ子

捕り手A／小林重和

捕り手B／加藤淳

太鼓・三味線……余目友星会

琵琶語り……市川石水（錦心流琵琶全国一水会鶴岡支部）

【スタッフ】

音響……KATUMI（表現舎刻一刻）

照明……（株）ボイス 武田正気

衣装・かつらコーディネート……夢一座

舞台美術……亀井淳

宣伝美術……佐藤賢太郎

小道具……足達登志子／上野美穂／佐藤あゆ子

制作……阿部利勝

協力……清河八郎顕彰会



身振り手振り、熱の入った演出

演出に当たって

ご縁をいただいた時、ふと思い出した事がありました。四七号線を清川集落を直進で南下していた時に、日本海に沈む夕日が、異様なほど大きく見えて、パワーを頂けるような心情になった事を……。この思いを舞台に乗せて芝居を作っておりますが、当初、この作品が私どもの手に負えるかどうか、大変心配しました。脚本家の柘植先生とお会いし、先生から「楽しく作ってください」とプレッシャーの無い言葉をいただき、救われました。

いづれにしても、郷土が生んだ清河八郎、柘植徳井。そして凛として清河の志に寄り添った「お蓮」。骨太で素晴らしい作品は、いやおうなしに役者魂を燃え上がらせてくれます。庄内町、響ホール事業推進協議会、顕彰会の皆様の手厚い中で芝居作りができた事に感謝です。

表現舎刻一刻 佐藤正一

柘植徳井……山形県庄内町清川出身。千葉市中央区在住。一九六二年上京。子育てを終えてから、東京・北青山の「シナリオ・センター」にてシナリオを学ぶ。一九九〇年に公募「シナリオ募集ります」で受賞。東宝（株）で、企画書の仕事をを経て、一九九三年よりシナリオ・センター講師として現在に至る。